

中期 経営目標	短期 経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)		改善策
				令和 6 年度	令和 7 年度	1 回目	2 回目	
【知】 生涯を通じて生きて働く学力を身に付けた児童を育てる。	①主体的・協働的に学ぶ力（非認知能力）と思考力・判断力・表現力(認知能力)を身に付けさせる。	①単元内自由進度学習など、児童が自ら学習を進めたり、他者と協働しながら学習したりする授業を行う。	①調べたり、考えたりすることが好きと答える児童の割合 ①各学年の 2 教科（国・算）の全テストの思考・判断・表現の到達度が 60%以下の児童を減らす。	92% 75% (-) 8 名	94% 減	90% 8 名 → 5 名	98% 8 名 → 8 名 (5 名)	・肯定的評価の目標値を達成することができた。否定的評価の児童の背景を分析した結果、特定の教科に限り、一人で静かに取り組みたい気持ちが強いようなので、アンケートの質問の仕方を工夫し、「どの教科でも」という文言を付け加えて引き続き取組を進める。 ・個々の学習状況を的確に見取り、個々に適切な支援を継続する。また、定着ができていない単元に入る場合は、導入時に既習事項の復習を行ってから、新しい学習内容を進めることができるように授業改善を図る。また、一時間の学習量を増やしたり、木曜日 6 校時を中・高学年の学習を複数の教職員で指導できるように、体制作りを進めたりする。
	②自分の考えを、自信をもって伝えられる表現力を身に付けさせる。	②授業の中で自分の考えを説明する場や日常的に思いを話す場を設定する。	②相手の立場にたって、自分の考えを伝えようとする児童の割合	92%	94%	88%	96%	・肯定的評価の目標値を達成することができた。しかしながら、児童の中には、アンケートの質問に悩む児童が見られた。「自分の考えを、理由や例などを挙げながら、友達にわかりやすく伝えようとしている。」で、「努力をしているが、まだできていないから、否定的評価にしないといけない」と捉えた児童がいたので、アンケートの質問の仕方を工夫し、「伝えようがんばっている。」の文言に変えて引き続き取り組む。
【徳】 ふるさとや人を大切にし、よりよく生きようとする児童を育てる。	①ふるさと（地域）に愛着をもった児童を育てる。	①生活科、総合的な学習で、切串の『ひと・もの・こと』を題材にした児童主体の探究活動を行う。 ①コミュニティースクールとして、地域の人と様々な形で関わる機会を増やす。	①ふるさとが好き、大切にしたいと思う児童の割合	100%	100%	98%	98%	・ゲストティーチャーに話を聞いたり、郷土料理を教えて貰い一緒に作ったりして、活動を深めることができた。地域の方との関わり合いの中で、児童は多くの学びを得て、地域の魅力を実感することができた。地域の方々との触れ合いの直後に地域の人との交流の良さや学びを全体で共有する機会を設定する。 ・振り返りやまとめでふるさとへの愛着を高めていくような取組を行う。 ・おかげんさん祭の船作り、平和学習、総合的な学習のグループ活動等で講師やボランティアを依頼し、地域の人々と共に学びを深めていく。
	②自他を大切にできる基盤となる自己肯定感を高める。	②単元内自由進度学習や、児童の自治活動など、児童が自己決定できる場を増やす。教師は肯定的に関わり、振り返りを促す。	②自分がかんばったと思うことや、成長したと思うことが表現できる児童の割合	92%	94%	84%	90%	・教師が児童主体の活動に肯定的に関わり、励ましやアドバイスを続けていく。児童は、次回からの具体的な活動に繋がっていきけるように一つ一つの活動を丁寧に振り返る。 ・自己決定したり、自治活動を円滑に進めたりするための話し合いの進め方、意見の集約の仕方、提案資料の作成などの手立てを準備し、指導していく。
	③他者の考えを聴こうとする児童を育てる。	③授業や帰りの会などでフリートークやサークル対話を行い、自分の考えや振り返りを互いに伝え合う場を設ける。	③相手の話をしっかりと聴こうとしている児童の割合	96%	98%	90%	98%	・引き続き、授業や学校生活の様々な場面で友達の話を楽しんで聞いたり気軽に意見交流したりする場を多く設け、伝え合うことが自然にできる活動を継続していく。 ・笑顔で相槌を打ちながら聞く、感謝の気持ちや肯定的な感想を伝える、共感しながら聞くなど楽しくコミュニケーションを取ることができる聞き方を練習する。
【体】 主体的に健康を保持増進しようとする児童を育てる。	①主体的に健康づくりに取り組む態度を育てる。	①日々の給食指導や食育指導による児童への啓発に年間を通して取り組む。 ①行事などに関連させた体力づくりの取組や業間運動を行う。	①給食をバランスよく食べようとしている児童の割合 ①体育を除く 1 週間の運動時間が 60 分以上の児童の割合	98%	80%	90%	98%	・日々の給食指導を継続し、配膳や喫食の場面での声掛けを行ったことで、児童が、主食・主菜・副菜を意識して食べようとする態度が定着した。 ・体育を除く 1 週間の運動時間が 60 分以上の児童の割合が、前回に比べると 16% 上回った。テニス・バトミントンなどの遊び道具が新たに加わったことが原因として考えられる。これからも、この遊びを継続しつつ、特定の児童が遊んでいる傾向があるので、学年毎に体力のめあてをもつような取り組みを行ったり、目標を決めて意識を変えていったりする。
				96%	96%	78%	90%	

	②主体的に運動やスポーツに関わる習慣や態度を育てる。	②運動やスポーツへの多様な関わり方を通して、児童が運動の特性や楽しさを味わえる授業づくりを行う。	②体を動かすことやスポーツには楽しさが「ある」と答える児童の割合	92%	92%	92%	98%	・前回同様、体を動かすことやスポーツの楽しさは98%と肯定的評価が高い。引き続き、体育の授業や業間運動などで、児童が楽しいと思える、または、楽しさをみつけようとする授業展開に務める。
開かれた学校をつくる	保護者の安心感を向上させる。	○学校だよりや学級通信、ホームページやインスタなどで、学校、児童の様子を発信する。	○情報発信への保護者の満足度	96%	96%	90%	94%	・学校行事や授業の様子など、学校での児童の様子を、機を逃さず発信していく。 ・修正や変更についての説明を丁寧に行う。 ・学校からの連絡を確実にを行う。
		○迅速・丁寧な保護者対応を行う。	○相談体制への保護者の満足度	96%	90%	100%	96%	・挨拶を基本としながら、日頃から保護者とのコミュニケーションに留意し、明るく、丁寧な保護者対応を一層進める。
働いてよかったと思える学校をつくる。	職場の心理的安全性を向上させる。	○授業やその他の教育活動における教職員の強みを全体で共有するとともに、お互いが協働して業務を遂行する雰囲気づくりを行う。	○仕事にやりがいを感じている教職員の割合	91%	90%	100%	100%	・「仕事にやりがいを感じる」が100%となり職場の心理的安全性を向上させることができていると捉える。今後も継続して取組を進める。
		○教職員が働きやすさを感じることができるよう、働き方改革の提案や業務改善を実施する。	○風通しのよい職場だと感じている教職員の割合	91%	90%	88%	75%	・「風通しのよい職場」については、目標値に達していない。(3名) 考えや価値観の違い・お互いのコミュニケーション不足が要因と考えられるので、コミュニケーションの活性化を図っていく。